

「彫金」という技術をご存知だろうか？ 金属に彫刻をする技術だが、世界の多くの国々で用いられている。この技術の日本での歴史は古く古墳時代の遺構の出土品からも確認されている。以降、時代を経ると共に仏具や刀剣そして煙草入れなどの日用品に用いられ、日本独自に進化し今もその技術は脈々と受け継がれている。

先日、そんな日本独自の進化を遂げた彫金が入賞するなど今最も注目されているアート作品だ。彼の今回の訪問の目的は現代アートが最も集まるとも言われているオランダで日本独自の技術を取り入れた自身の作品が受け入れられるのかを見極める事だった。実際に幾つかのギャラリーに飛び込みで作品を持ち込み、ギャラリストにも意見を聞いた。すると挙って彼らは芸術作品として賞賛すると同時に、見た事がない彫金に驚き、その日本独自の技法に興味津々だった。

これこそが世界に日本を知ってもらい日本ファンを創りクールジャパンコンテンツを売る第一歩である事は間違いない。これまでも浮世絵や陶磁器などは日本の美術品として世界中で注目を浴びてきた。しかしあくまでもアンティークの民族芸術としての評価であっ

売上げを作るクールジャパンを考える⑦

文 岸本公平

text by Kouhei Kishimoto

た様に見受けられる。そんな中で民族性が現れ難い現代アートの作品の中に、目を引くポイントとして日本独自の彫金技術を盛り込む事で、日本に興味が無かった人にも日本の魅力を発信し価値を認知させる事ができる。

現在、彼の作品はモノによっては数百万円で取引される。そんな価値が見出されている要因の一つは、日本独自の彫金が日常身につける装飾品として美術品よりも身近であるからだろう。つまり高級美術品の一部として認識された彫金技術は箸や扇子の様に日本由来のクールなモノとして外国人から求められ海外での新たな市場を創り出す可能性があるのである。

彫金の他にも日本国内には多くの伝統技術が存在する。そんな受け継がれてきた技術の中には国内での今後の展開に頭を悩ます技術もある。しかし目線を少し変え海外でのブランディングをする事で新たな可能性を導き出す事が出来るのではないだろうか。



一番高価な作品の写真



Profile

株式会社NEWTRAL代表取締役
HANABIプロジェクトプロデューサー
福岡県出身。日本大学中退後、テレビ番組制作会社入社。その後ディレクター、プロデューサーなどを経て、30歳の時株式会社NEWTRALを設立。メディアで学んだ企画やプロデュースの視点を生かし、企業のコンサルティングはもとより、地方創生事業やクールジャパン事業に取り組む。